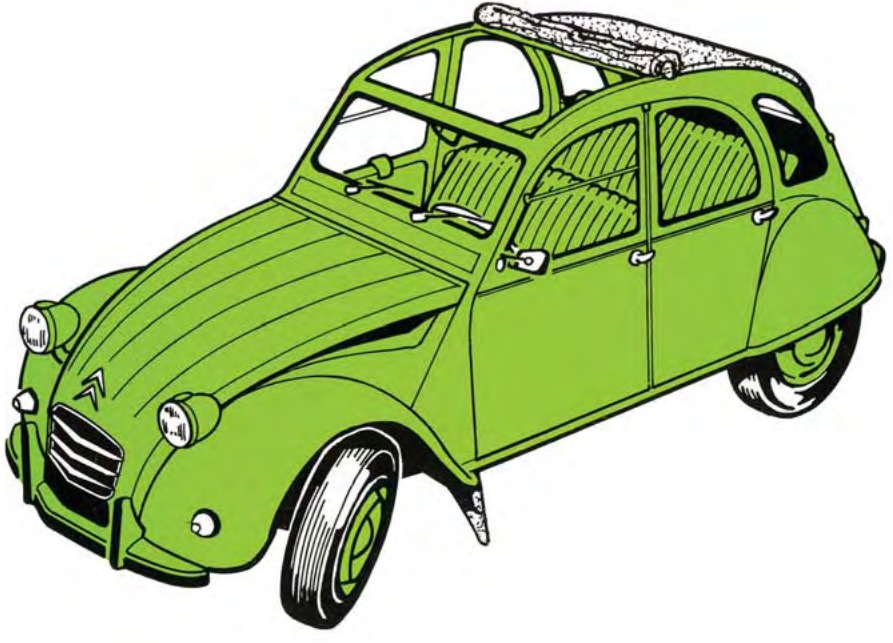
OWNER'S MANUAL



CITROËN 2 CV6

数多い車種の中から、特にシトロエン２ＣＶ６をお選びいただきまして誠に有難うございます。

本書には、あなたのお車を安全に、且つより長くご使用いただくための正しい運転・操作の方法を、項目別に記載してあります。これによってシトロエン２ＣＶ６のすべてに精通していただけるものと確信しております。もしご不明の点がありましたら、最寄りの販売店でお確めください。

お車を常に最良の状態に維持するためにも当社サービス工場又は指定工場にて点検整備をお受け下さいますようお願い致します。

なお改善等により、記載された仕様その他が変更される場合があります。あらかじめご了承下さい。

重要

シトロエン2CV6の排出ガス清浄装置とその取扱いについて

Ⅰ．排出ガス清浄装置

この車には、排出ガスを清浄にするために、次の主な装置を備えています。

1.三元触媒装置
2.活性炭入りキャニスタ
3.ブローバイガス還元装置

Ⅱ．取扱い方法

排出ガス清浄装置を正常に作動させるため、次の項目について正しい取扱いを行なって下さい。

1.燃料は必ず**無鉛ガソリン**をお使い下さい。
2.三元触媒装置は四年毎に取替えるように義務づけられています。

Ⅲ．エンジンの始動要領(チョーク操作方法)

この車には、警告灯付き手動式チョークが備えられております。
チョークを引くと、ボタンが点灯します。
チョークはエンジンが冷えている時のみ使用してください。

エンジンが冷えている時

1.チョークを一杯に引き、アクセルを踏まずにスタータを回して下さい。
2.一回でエンジンが始動しない時は、スタータの使用を10秒程度で止め、少し間を置いて再始動して下さい。
3.エンジン始動後、チョークをノッチで止まる位置まで戻して下さい。
4.この位置で暖機運転を行なって下さい。
5.暖機運転後、チョークを完全に戻して発進して下さい。

エンジンが暖まっている時

1.チョークを引かずにアクセルを½程度踏み込み、スタータを回して下さい。
2.一回でエンジンが始動しない時は、スタータの使用を10秒程度で止め、少し間を置いて再始動して下さい。

Ⅳ．排気系温度異常上昇警報装置

この車は、排気温度の異常上昇を感知し、運転者に知らせる警報装置を備えています。

警告灯：警告灯は計器板の左側下部にあり、「ＥＸＨ」と表示してあります。

警告灯の確認：警告灯はイグニッションを「ＯＮ」位置に入れる毎に数秒間点灯します。

運転上のご注意

計器板の警告灯「ＥＸＨ」は、イグニッションを「ON」位置に入れる毎に数秒間点灯します。

- **運転中に点灯したときは、ただちに可燃物のない場所に停車して下さい。**
- **エンジンを一旦停止し、イグニッションを「ON」位置に入れ警告灯が消えるまで、お待ち下さい。**
- **警告灯が消えないとき、またはたびたび点灯するときは、指定サービス工場で点検を受けて下さい。**

重要

騒音防止対策について

騒音防止のため、次の項目について正しい取扱いを行なって下さい。

- **タイヤ等**：車両に装備されているホイール及びタイヤは、規定のものをご使用下さい。
- **車　　体**：みだりに車体等の改造は行わないで下さい。
- **消 音 器**：消音器の改造及び取りはずし等は行わないで下さい。
- **そ の 他**：車両の構成部品について、改造、変更、取りはずし等は行わないで下さい。

内　　容

運　転　操　作

開閉及施錠：
　ドアー、トランク、ボンネット　2
運転席：
　コントロール、アクセサリー　4
　計　器　板
　シート、バック・ミラー、安全ベルト　6
始動：
　防盗装置、イグニッション・スターター10
　チョーク
運転：
　ギヤー、クラッチ、ブレーキ　12
信号灯、視界及び灯火類：　13
　方向指示器、フロント・ガラス
　ワイパー及びウォッシャー、ヘッド・ランプ及びホーン
　暖房、換気、防湿、防霜装置　15
　ルーフの開け方：　18
　アクセサリー：
　灰皿、室内灯、後部荷物棚　20

定期的メインテナンス

レベルの点検：
　オイル、ブレーキ・オイル　22
機械部品及び電装品　24
車体作業　26
室　内　28

マイナー・リペアー

計器板計器類の説明　6
ホィール交換　30
電球の交換　31
フューズの交換　34
バッテリーの交換　34
スパーク・プラグの交換　35
クランク・ハンドルの使用　36
牽　引　36

そ　の　他

馴らし運転、サービス、保証
運転及び走行費用　38
トレーラーの牽引　39
車両の認識番号　39
概要諸元表　40

馴らし運転

最初の1,000km迄の各ギヤーでの最高速度は：

- ▶第1速ギヤー…… 20km/h
- ▶第2速ギヤー…… 45km/h
- ▶第3速ギヤー…… 65km/h
- ▶第4速ギヤー…… 90km/h

1,000kmから3,000km迄は、無理な加速は控えて下さい。

第1回目の整備

1,000km速行時：

▶シトロエン販売店で、規定整備を受けて下さい。

レベルの点検

長距離ドライブに出掛ける時には、下記個所の点検及び必要に応じて補充をして下さい。

- ▶エンジン・オイル
- ▶LHMブレーキ・オイル

交換

7,500km毎に：(5,000km)	▶エンジンオイル
15,000km毎に：(10,000km)	▶オイル・フィルター及カートリッジ
22,500km毎に：(20,000km)	▶ギヤー・ボックス・オイル

警告灯

ブレーキ・オイル・レベル及びエンジン・オイル・プレッシャー用の赤の警告灯に注意して下さい。走行中に点灯したら、直ちに停止して下さい。

常備品

常に携帯して頂きたいもの：

- ▶電球類一式
- ▶フューズ・セット（10~16A）

タイヤ

タイヤ圧は定期的に点検して下さい。

ホイールの交換

- ●トランク内に工具及びスペア・ホイール
- ●ホイール交換作業は30頁をご参照下さい。

取付	ミシュラン	フロント	リヤー	スペアー
標準	125-15X	1.4kg/cm²	1.8kg/cm²	2.0kg/cm²
取付可能	135-15X 135-15ZX 125-15X(M+S) 135-15X(M+S)	1.4kg/cm²	1.8kg/cm²	2.0kg/cm²

運　転　操　作

開閉及施錠：
　ドアー、トランク、ボンネット　2
運転席：
　コントロール・アクセサリー　4
　計　器　板
　シート、バック・ミラー・安全ベルト　6
始動：
　防盗装置、イグニッション・スターター　10
　チョーク
運転：
　ギヤー、クラッチ、ブレーキ　12
信号灯、視界及び灯火類：　13
　方向指示器、フロント・ガラス　14
　ワイパー及びウォッシャー、ヘッド・ライト、暖房、換気、防湿、防霜装置
　ルーフの開け方：　18
　アクセサリー
　灰皿、室内灯、後部荷物棚　20

本第一章は、貴方のお車を運転し、２CV６の持つ全ての利点を充分にご利用するのに、予め知っておいて頂きたい必要事項が説明されています。計器板は６頁に説明されていますので、必要時の為にも直ちにご使用出来る様、記号の意味をお確め下さい。
車ご使用前に38頁をお読み下さる様お願いします。

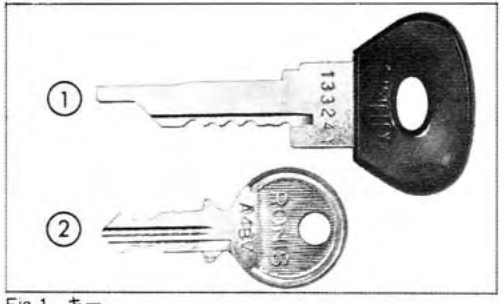


Fig.1 キー
① 防盗／点火／スターター用
② フロント・ドア／トランク用

キー

Fig.1

●**大きなキー** ①イグニッション・スイッチ(ハンドル・ロック付)、スターター用です。
●**小さなキー** ②フロント左右ドアーとトランクのドアー用です。

キー番号はメインテナンスガイド・ブックか、手帳等に記入しておくことをおすすめします。

ドア

Fig.2

●**外側から：**
開くには：ハンドルを下方に廻して下さい。
ロックには：キーでロックして下さい。(フロント・ドアーのみ)
●**内側から：**
開くには：フロント・ドア：ドア前部のレバーを上げて下さい。
リヤー・ドア：レバー①を押して下さい。
ロックには：②キャッチを下して下さい。(リヤー・ドアのみ)
ロック解除：②キャッチを上げて下さい。

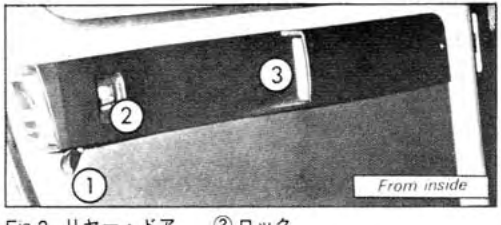


Fig.2 リヤー・ドア ② ロック
① 開く ③ 手掛け

リヤー・トランク・ドア

Fig.3

開くには：ドア・キーをロック①に挿し込み、ロックを解き、ハンドル②を廻して下さい。蓋が少し開きます。ドアを完全に上げて、③ステーを④サポートの孔に引掛けて下さい。
閉めるには：ステーをサポートの孔から外し、ドアーを押えながら、ステーを止めてから閉めて下さい。
取外すには：トランクのドアを取外すには、一杯にドアを押上げて蝶番部を右か左にスライドさせて下さい。
＊ステーをしたままの運転は決してしないで下さい。

ボンネット

Fig.4

●安全キャッチ②を外すには、フロント・バンパーの中心部下にあるレバー①を押し上げて下さい。
●ボンネットを上げて、ステー③の端を、ボンネットのゴム・リング⑤に押し込んで下さい。
●ボンネットを閉める前に、ボンネット・ステーを④のサポートに入れるのを忘れないで下さい。

給油口

●右後部フェンダーの上部にあります。
開くには：キャップを押し、時計と逆方向に廻して下さい。
閉めるには：キャップが完全に閉る迄、時計方向に廻して下さい。
(註)：オプションで、キー付ガス・キャップがあります。

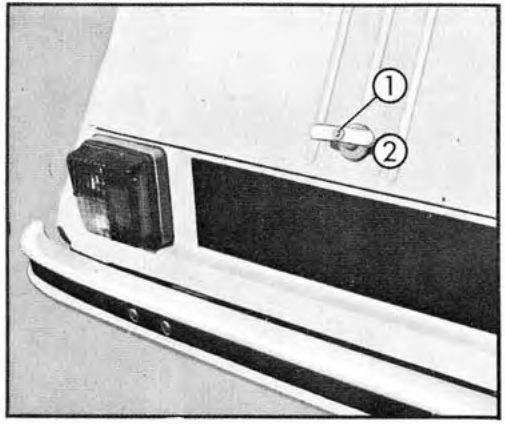


Fig.3a リヤー・トランク・ドアー
1.ロック
2.ハンドル

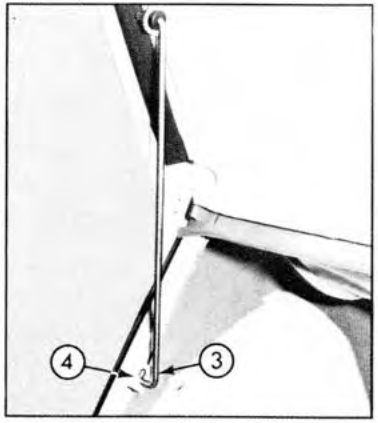


Fig.3b リヤー・トランク・ドアー
3.ステー
4.サポート

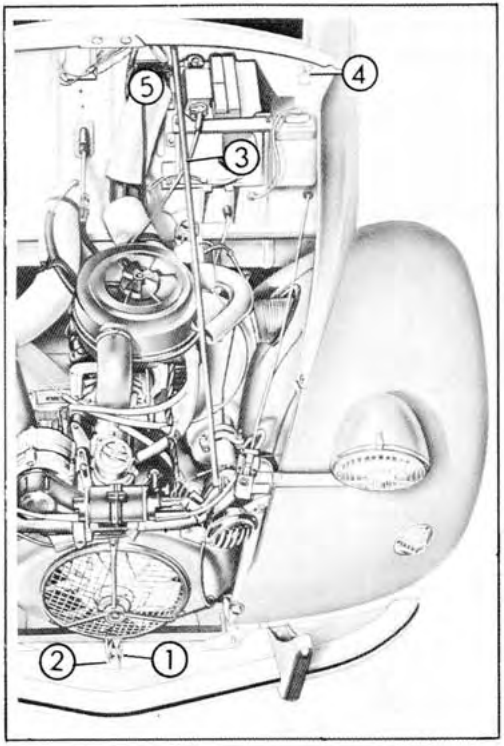


Fig.4 ボンネットの開け方
1.リリース・レバー位置
2.安全キャッチ
3.ステー
4.ステー・サポート＋引掛
5.ボンネット支えゴム・リング

スピード・メーター③、ガソリン・ゲージ⑰、積算走行メーター、⑲、バッテリー・チャージ・インジケーター⑳はスモール・ランプ点灯時には照明されます。ハザード警告灯⑯は、イグニッション・スイッチがON又はOFFでも作動します。

1 **方向指示器**

2 **ハザード警告灯コントロール**

3 **スピード・メーター**
- オレンジ色マークは、各ギヤの限界スピードを示しています。

4 **換気口、左側**

5 **フロント・ガラス防湿、防霜ノズル**

6 **エンジン・オイル・プレッシャー警告灯**
- イグニッション・スイッチをONにすると点灯し、エンジンが回転し始めると消えます。
- エンジン回転中に消えず、又走行中に点灯した時は、エンジンを止め、オイル・レベルを点検、必要なら補充。
- オイル・レベルが正常でも点灯している時はシトロエン販売店に連絡して下さい。

7 **ブレーキ・オイル・レベル警告灯**
- タンク内のオイル・レベルが低過ぎると点灯します。
- 点灯したら、直ちに車を停止し、シトロエン販売店に相談下さい。
- 始動前に、チェック・ボタン⑧を押し、警告灯が正常に作動しているか確認して下さい。

8 **ブレーキ・オイル・レベル警告灯チェック・ボタン**

9 **フロント・ガラス・ワイパー・コントロール**

10 **ライト及ホーン**

11 **換気用シャッター・コントロール・ノブ**

12 **暖房コントロール**

13 **灰　皿**

14 **換気口、右側**

16 **ハザード警告灯**
- 作動中は点滅しています。

17 **ガソリン・ゲージ**
- タンク容量：25リッター

18 **防盗、イグニッション、スターター・スイッチ**

19 **積算走行距離計**

20 **バッテリー・チャージング・インヂケーター**
- エンジン回転速度が正常の場合、針は白い位置に有ります。赤の位置にある時は、シトロエン販売店に相談下さい。
- ヘッド・ランプ点灯走行時、針が白の斜線部に有る場合があり、バッテリー・チャージが不充分を示します。
- 正常な状態で、走行している時、ジェネレーターはバッテリーを充電している筈で、2時間以内に針が白い位置に戻ります。戻らない場合は、シトロエン販売店に相談下さい。

21 **ハンド・ブレーキ**

22 **フロント・ガラス・ウォッシャー・ポンプ・コントロール**

23 **警告灯付チョーク・コントロール**
チョークボタンの戻りが不充分だと、点灯しています。

24 **フロント・ガラス、足元切換コントロール**

25 **ギヤー・チェンジ・レバー**

26 **グローブ・ボックス**

註：車種により一部異る場合があります。

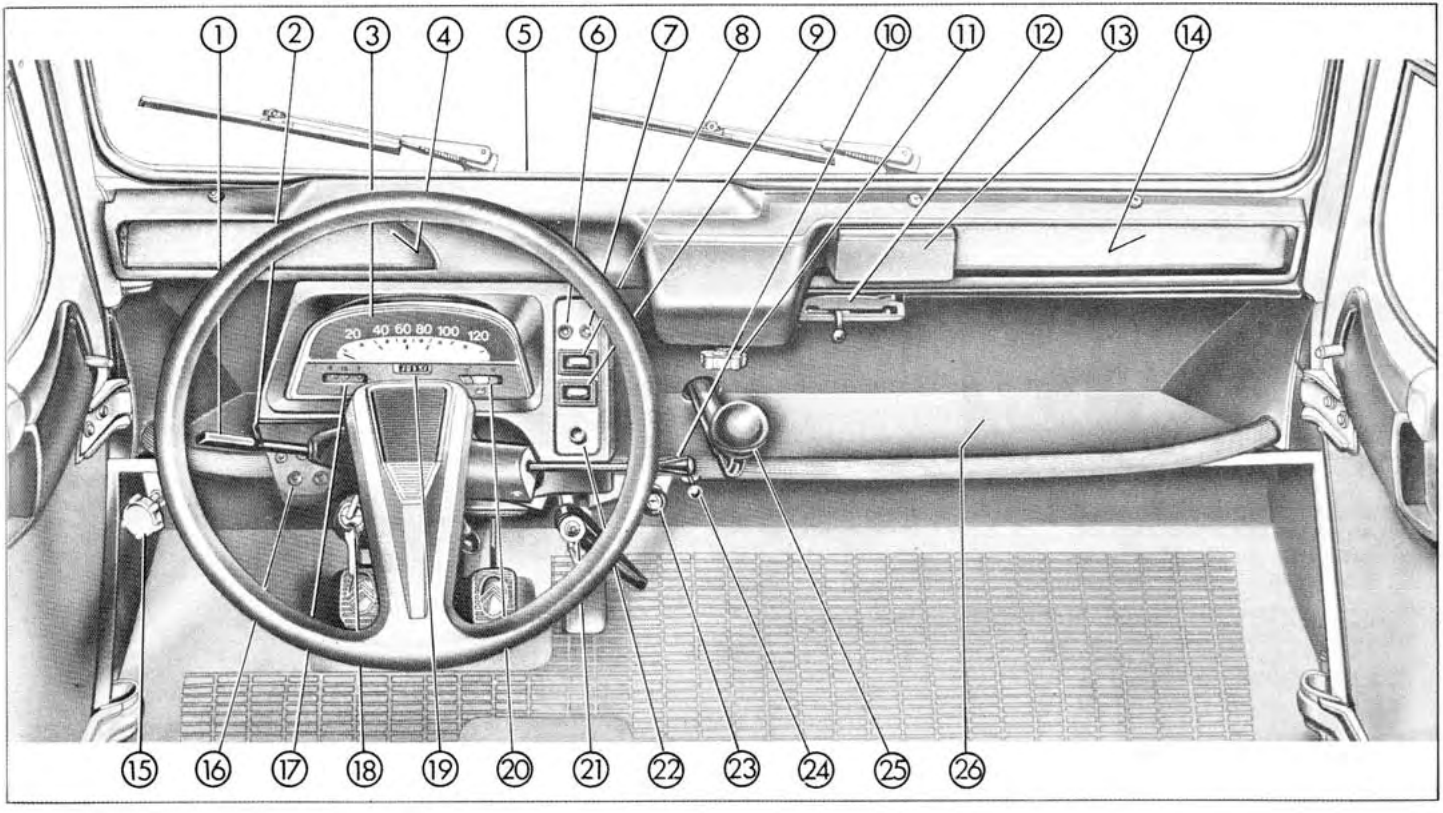


Fig.8

2 CV 6 Club

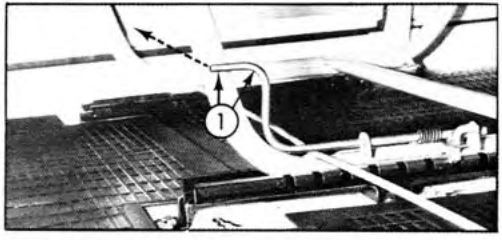


Fig.9 フロント・ベンチ・シート調整
①ロック解除ハンドル

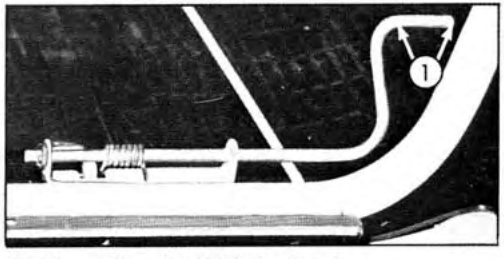


Fig.10 セパレート・フロント・シート
①ロック解除ハンドル

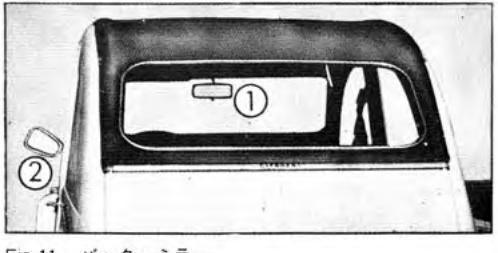


Fig.11 バック・ミラー
①室 内
②外 部

フロント・ベンチ・シート

Fig.9

前・後調整：運転席の右側に位置するハンドル①を上げて下さい。シートを前後に、スライドして下さい。スライドには7ヶ所の切込みがあります。
シートを取外すには、シート中央フレームの右側のストッパーピンを引き抜いて下さい。そしてハンドル①を上げて、スライドレールの最後端迄シートをスライドすれば、レールから外れます。

セパレート・フロント・シート

Fig.10

前後調整・：運転席の右側、助手席の左側のハンドル①を上げて下さい。
シートを取外すには、シート中央フレームのストッパーピンを抜き、ハンドル①を上げて、シートを後へスライドし、レールから外れる迄引いて下さい。

リヤー・ベンチ・シート

取外すには、パイプ中央部の両側ブロック・プランジャーを外し、シートを前倒しにして、床から下部止め金を外して下さい。

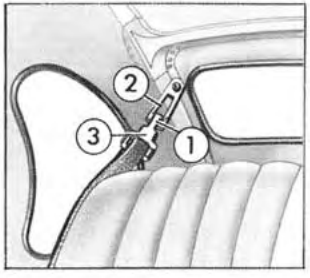
バック・ミラー

Fig.11

ドアー・ミラーは両側についています。室内ミラーは、下部にあるレバーにより、2つの位置にセット出来ます。
日中：レバーを引く
夜間：レバーを押す
ミラーのアーム及ケースは蝶番式になっています。

運転席

フロント・シートの位置を直し、手動操作及ペダル操作が容易に出来る様にして下さい。
バック・ミラーを見易い位置にセットして下さい。
そして、シート・ベルトを着け、正しくロックして下さい。



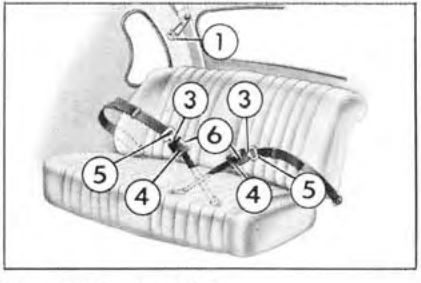


Fig. びさシート・ベルト
①ロッキング・キャッチ
②フック
③キャッチ金具
④バックル
⑤調整バックル
⑥ロック解除ボタン

3．調整式シート・ベルト

Fig.13

装　着：－キャッチ止め金③を、フック②から外す。
－シート・ベルトの相方をひざの上に持って来て、キャッチ①をバックル④に、ロックする迄挿し込んで下さい。

調　整：－ベルトを、きつ過ぎない様に、身体に合せて下さい。
－長さの調整は、バックル⑤でベルト調整をして下さい。

取外し：－赤色のボタン⑥を押して下さい。

捲取式シート・ベルトの点検：キャッチ止め金を持って、ベルトを着ける様に、ベルトを速く引張って下さい。リールがロックします。

ベルトの清掃：メインテナンスの　頁を参照

交　換：ひどい事故にあった時、又はほつれたり、切れたりしたら交換して下さい。

注　記：ベルトや金具類の改造はしないで下さい。ベルトの効果を悪くすることがあります。
法律上の問題もありますので、シトロエン販売店とご相談下さい。

シート・ベルト

シート・ベルトを着けることは、運転中は市内を含めて大切な事です。ベルトで正しく着ける事も大切です。

－バックルは腰の横側にし、上にならない様にして下さい。

－ベルトは、ピタリと着け、ゆるく着けると保護になりません。
自動ベルトは、多少の動きが出来る様になっていますが、正しく身体に合う様に着けて下さい。

－ベルトは平に取り着け、捻れない様にして下さい。対角のベルトは肩に掛け、腕の上部にはつけない様にして下さい。

－ベルトは大人一人用で、二人以上又は膝に子供を乗せての使用は危険です。

ベルトの使用

Fig.12

1．自動捲取式シート・ベルト

装　着：－キャッチ、止め金②を手に取って、身体に斜めに着けて下さい。
－滑らかに操作しレール①がロックしない様にして下さい。
－キャッチ止め金をバックル④迄持って行き、ロックする迄充分に挿し込んで下さい。

調　整：－自動的に身体に合う様になっています。

取外し：－赤色ボタン⑤を押し、捲戻しが早過ぎない様にして下さい。

2．調整式シート・ベルト

装　着：－キャッチの止め金を、後方に押して、ホールダーから外して下さい。
－ベルトはバックルとキャッチの止め金が捻れない様にして着けて下さい。
－キャッチ止金をバックルに充分にロックする迄挿入して下さい。

調　整：－ベルトはきつ過ぎない様に身体に合せ、長さはバックルの調整で、ベルトの調整が出来ます。

取外し：－赤いリリース・ボタンを押して下さい。
－ベルトは、キャッチ止め金の引掛に掛けて元の位置に戻して下さい。

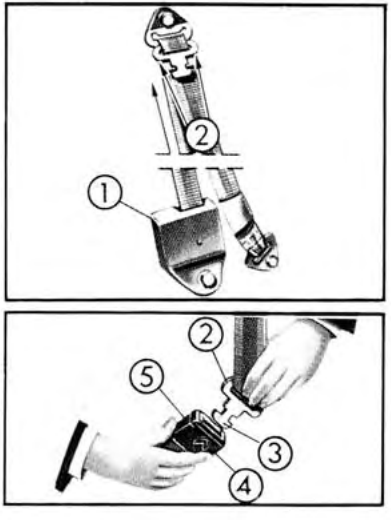


Fig.12　自動捲取式シート・ベルト
①リール・ケース
②ロッキング・キャッチ止め金
③ロッキング・キャッチ
④バックル
⑤赤色リリース・ボタン

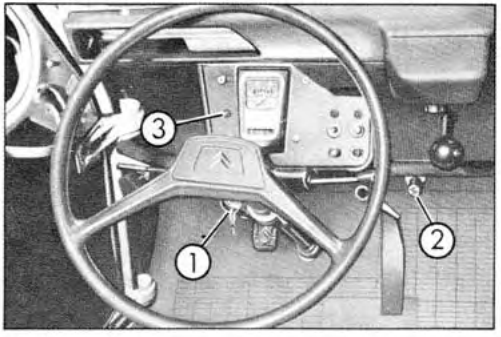


Fig.15

①防盗、イグニッション・スイッチ　2 CV 6 Special
②チョーク・コントロール
③エンジン・オイル・プレッシャー警告灯

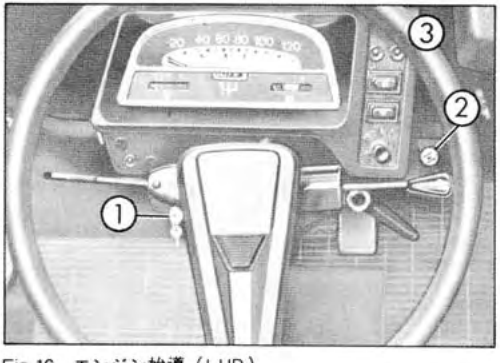


Fig.16　エンジン始導（LHD）

①防盗、イグニッション・スイッチ　2 CV 6 Club
②チョーク・コントロール
③エンジン・オイル・プレッシャー警告灯

チョーク・コントロール

Fig.15 to 16a

チョーク②は、エンジンが冷えている時にのみ使って下さい。
チョークの警告灯は、チョークが完全に戻っていないと点灯しています。

始動前点検

裏表紙の始動前チェック・リストを見ていただくと見落しを防ぐことが出来ます。

エンジン始動

Fig.15 to 16a

密室でのエンジン始動はしないで下さい。
長期間使用しなかった時、又は温度が特に低い時には、イグニッション・スイッチを入れず、チョークも使わず、クランク・ハンドルでエンジンを空回転して下さい。

- チェンジ・レバーがニュートラルで、ハンド・ブレーキが引かれているか確認して下さい。
- イグニッション・キーをONの位置にしますと、オイル・プレッシャーの警告灯が点灯します。

防盗用ステアリング･ロック付イグニッション･スイッチ

Fig.14

1－イグニッション・キーをスイッチから抜き取り、ステアーリング・ハンドルの直進方向に対して、左方向に廻しますと、ステアリングがロックされます。キーは時計と逆方向の位置（0）にある時にしか、挿入又は抜き取ることは出来ません。

2－**ステアリング・ロックを外すには**：キーを充分に挿入し、時計方向に廻し、ステアリング・ハンドルを左右に動かしますと、ロック止め金の動きが、やや軽くなります。キーを（G）位置で、ステアーリング・ロックが外れ、イグニッションOFFとなります。

3－**イグニッション・スイッチON**：キーを(1)に回しますと、スイッチONとなり､ガソリン・ゲージが作動して、エンジン・オイル・プレッシャー警告灯、その他の警告灯が点灯し、方向指示器、ワイパー、暖房、防霜装置が使用出来ます。

4－**スターター・モーター始動**：キーを更に回し、スプリングの抵抗を押して(2)の位置でスターター・モーターが廻ります。キーは、(1)の位置でイグニッションONに戻ります。1回でエンジンが始動しない時は、3～4秒待って、繰返して下さい。エンジン回転中には決して、キーを始動の方向に回さないで下さい。

5－**イグニッション・スイッチOFF**：キーを時計逆方向Gの位置に回して下さい。

6－**ステアリングをロックするには**：車が停止後、キーを時計と逆方向Gの位置より(0)の位置に回し､キーを抜いて下さい｡ステアーリング・ハンドルを､ロックするまで回して下さい。

注記：(0)、はロック、(G) はOFF、(1) はON、(2) STのマークが付いています。

車が動いている間は、キーをステアリング・ロックの位置（0）に決して回さないで下さい。車輪がブロックされていない場合、又は隋行している時、ステアリング・ロックとなり、キーを抜いたり、抜けかけていた時には、危険です。

注意事項：如何なる場合でも、防盗用ロックとイグニッション・スイッチを別々にしたり、標準外の部品や附属品を使用しないで下さい。
ステアリングの偶発的ロックは、危険です。

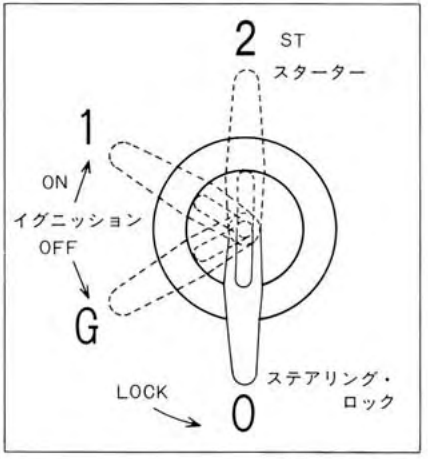


Fig. 防盗、イグニッション・スターター・スイッ

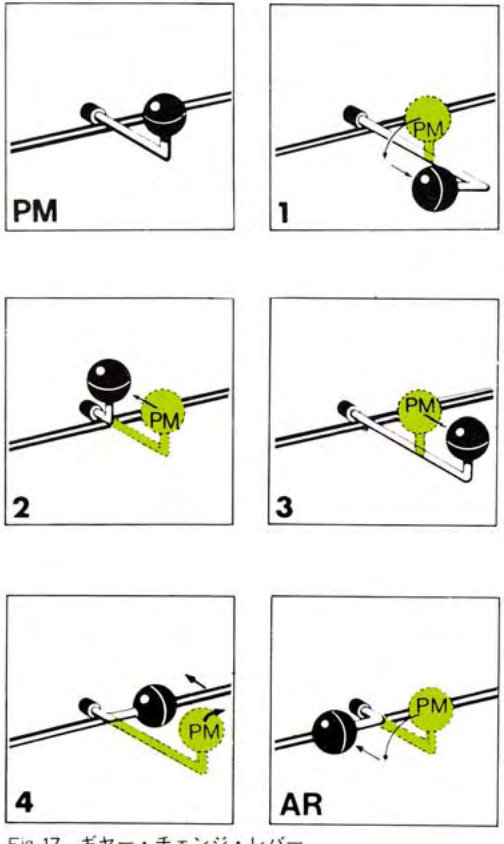


Fig.17　ギヤー・チェンジ・レバー
PM＝ニュートラル
AR＝バック

ギヤー・チェンジ

Fig.17

各ギヤーの位置は、積算走行距離計下、スピード・メーターのガラス面に示してあります。

- バック・ギヤーに入れるには、車が完全に停止してからにして下さい。
- 駐車時には、ギヤーをニュートラルにして下さい。
- スピードメーターの針が、各ギヤーでの速度のマークに達したら、直ちに、ギヤー・チェンジをして下さい。

クラッチ

- 通常タイプの足踏式

エンジンが冷えている時

- アクセル・ペダルを踏まないで下さい。
- チヨーク②を充分に引いて下さい。警告灯がつきます。
- スターターで、エンジンを始動して下さい。
- ニュートラルでエンジンを、しばらく回転させ、空吹かしをしないで下さい。
- エンジンの暖り具合により、徐々にチヨークを戻して下さい。
- エンジンが充分に暖ったら、チヨークを完全に押し戻して下さい。警告灯が消えます。

注記：ギヤーをニュートラルの位置にし、クラッチを踏むと、エンジン始動が容易です。エンジンが始動したら、数秒後にクラッチ・ペダルを徐々に戻して下さい。
したら、数秒後にクラッチ・ペダルを徐々に戻して下さい。

エンジンが暖まっている時

- チヨークは使用しないで下さい。
- アクセル・ペダルを½程度踏み込みスターターを回して下さい。
- エンジンが始動したら、直に、アクセルペタルを戻して下さい。

山岳地帯で小休止した時

- アクセル・ペダルを½程度踏み込み、スターターを回わして下さい。
- エンジンが始動したら、直に、アクセルペダルを戻して下さい。
- アイドリングでエンジンが始動しない場合、チヨークを中間位置迄引いて下さい。

第1速ギヤーを入れる前

エンジン・オイル・プレッシャーの警告灯が消えてからにして下さい。
必要ならば、徐々にチヨークを戻し、エンジンの回転数を下げて下さい。
数分ドライブ後、チヨークの必要がありませんので、完全に戻して下さい。

メイン・ブレーキ

2系統式：ダッシュ・ボードの警告灯が、ブレーキ・オイル・タンク内のオイル・レベルが、〝MIN〞のマークより下ると点灯します。
スイッチを押すことによって、警告灯が正常に作動するかどうか点検することが出来ます。

ハンド・ブレーキ

Fig. 18 and 19

ブレーキをかける時：ハンドル①を引いて下さい。
ブレーキを戻す時：ハンドルを引き、ボタン②を押し、ボタンを押しながら完全に戻して下さい。

安全のため

ロックするには：ボタン②を引き、ボタン¼回転、右又は左に回し、ストッパー③を、ロック溝④に入れます。
ロックを外すには：ボタン②を引き、ストッパー③が、溝⑤に入る迄、回して下さい。

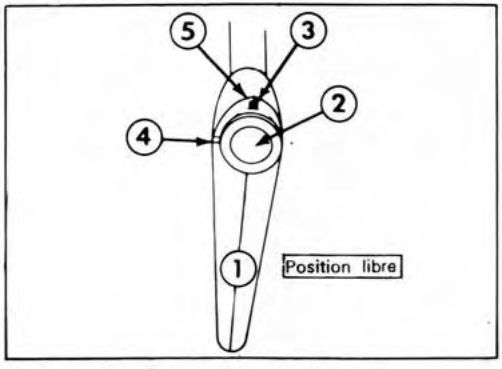


Fig. 18 ハンド・ブレーキ（ロックしてない時）
① ハンドル
② セーフ・ティー・ボタン
③ ロック・ストッパー
④ ロック・溝
⑤ ロック・ストッパー溝

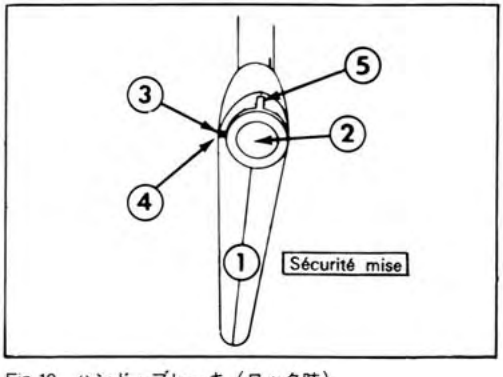


Fig. 19 ハンド・ブレーキ（ロック時）

方向指示器

右折：レバー①を上へ
左折：レバーを②の方向へ
戻す：レバーを中間の位置に戻す
方向指示灯が点滅している間、信号音がします。

フロント・ガラス・ウォッシャー

ボタン⑧首を回押して下さい。
ジェットからの水の高さは押す力によります。

フロント・ガラス・ワイパー

2CV6 Club

スイッチ⑦を押すと作動します。
スイッチ⑦を再び押すと、ワイパーは自動的に、正常の位置で止まります。

ヘッド・ランプとホーン・スイッチ

Fig.21

消灯：ノブ⑤の〝0〟マークをドライバーに面していると、ライトは消えています。

車巾灯と尾灯：ノブを回し、〝V〟のマークにして下さい。
ダッシュ・ボードの照明がつかない時は、車巾灯・尾灯が点灯しているか点検して下さい。点灯してない時は、該当するフューズ(後述)を交換して下さい。

上向ライト：ノブを回し、次の〝R〟の位置にして下さい。

下向ライト：〝V〟又は〝R〟の位置で、レバーを前方に押して下さい。

ホーン：ノブ⑤の頭を押して下さい。

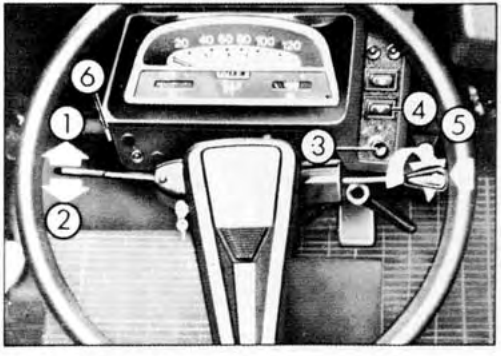


Fig.21 信号、灯火スイッチ
① 方向指示灯、右側
② 方向指示灯、左側
③ フロント・ガラス・ウオッシャー
④ フロント・ガラス・ワイパー
⑤ ライト及びホーン・スイッチ
⑥ ハザード警告スイッチ

ハザード・警告・スイッチ

2 CV 6 Club

ボタン⑥を押すと、方向指示灯の4灯が同時に点滅します。ダッシュ・ボードの赤ランプがその間点滅します。
ボタン⑥を再び押すと、警告灯共に消灯します。

駐車灯スイッチ

ハザード警告灯スイッチの下にあります。

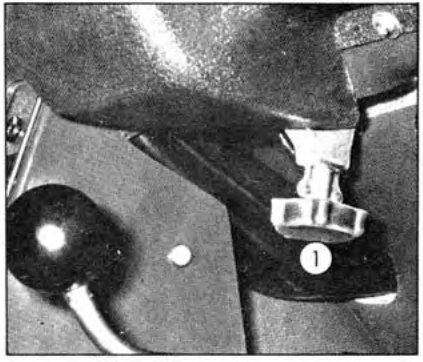


Fig.22 換 気
① コントロール・ノブ

フロント換気

Fig.22

(冷気のみ)
ノブ①を時計方向に回すと、外気が入って来ます。逆方向に回すと風量調整や換気口が閉ります。

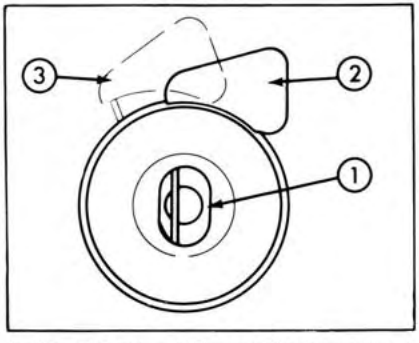


Fig23 フロント・ドアー・ウインド・ストッパー
① ロック
② ロック・止め金
③ ロック解除位置

フロント・ドアー・ウインド

Fig.23

ウインド・フレームの下部にあるキャッチを押すと、窓が開きます。
窓の回転部を押して、外側の上部ロック①に窓ガラスのストッパーを挿入しますと、窓ガラスの下半分が開きます。
閉めるには、ロック①の止め金②を③の方向に押すと、ストッパーが外れ、窓が閉ります。

暖房コントロール

Fig.24

(暖気のみ)

レバー②を赤マークの方向に押すと暖気が入ります。

レバー②を逆方向に戻すと止ります。

フロント・ガラス・足元切換コントロール

Fig.24

(暖気のみ)

ノブ①を引くと、暖気がフロント・ガラス方向に出ます。

ノブ①を押すと、暖気が床部方向に出ます。

ノブ①を中間位置にすると、両方に出ます。

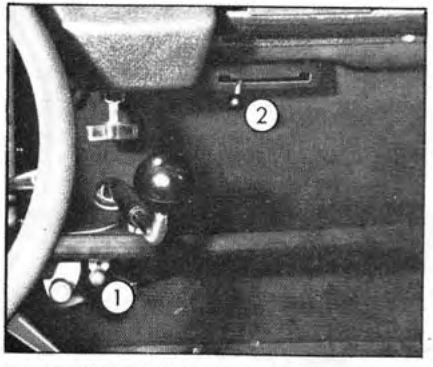


Fig.24 換気コントロール
① フロント・ガラス及び床部切換ノブ
② 暖房装置

フロント・グリル・カバー

Fig.25

10℃以下になったら、フロント・グリル・カバーを着けて下さい。

カバーの止め金①をフロント・グリルの溝に入れ、カバー中央を曲げて、止め金③を溝②に挿込んで下さい。

10℃以下の時でも、高速走行する時や登坂時は外して下さい。

15℃以上の場合は、グリル・カバーは必ず取外して下さい。

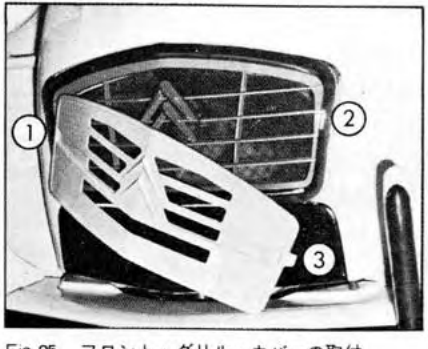


Fig.25 フロント・グリル・カバーの取付
①③ カバー止め金
② 溝

ルーフの開け方

2CV6 Special

- フード前端両側のフックバンドを引き出し、前下方向に引いてルーフ先端フックをボデー側のキャッチから外します。
- そのままルーフキャンバスを後方へ巻いて行き、センターフックを外します。
- ルーフ後端まで巻きとりましたら、フックバンドを後部キャッチの前側にかけて固定します。
- 両側共、固定されたことを確認の上走行して下さい。
  注意：走行中はルーフの開閉はしないで下さい。

2CV6 Charleston

半開

- 室内よりピボット・ロック・レバー①をフック②から外す。
- フード前部を押し上げ、クロスバー④を押しながら外し、後方へ倒します。
- フックバンド⑤とホック⑥でフードをセンターバーに固定します。

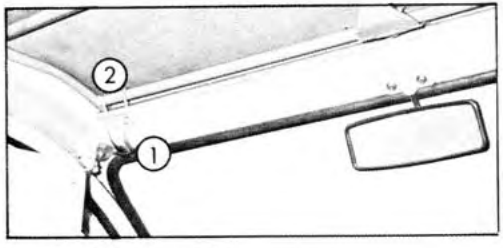


Fig.29 ①ロック・レバー
②フック

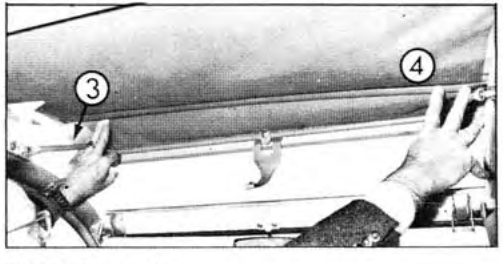


Fig.30 ③フレーム
④クロス・バー

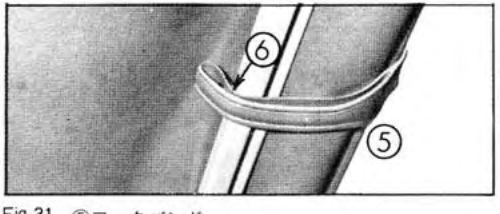
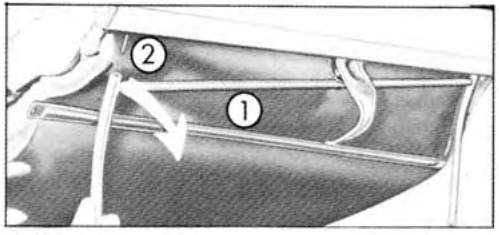


Fig.31 ⑤フックバンド
⑥ホック

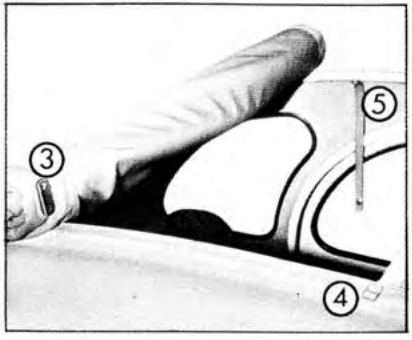
全開

フードのフロントを開けてから、外部より開けて下さい。

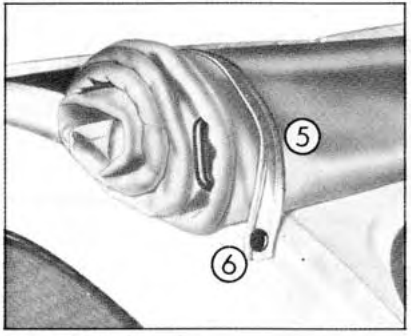
- ピボットフレーム①からフードピン②を外し、フレームは前向きに倒して下さい。
  フレームは前頁図のフック②で止めて下さい。
- センターフック③をキャッチ④から外し、ルーフキャンバスを後方へ巻いて行きます。
- ルーフ後端まで巻きとりましたら、フックバンド⑤とホック⑥で固定します。
  注意：走行中はルーフの開閉はしないで下さい。



①ピボットフレーム
②フック



③センターフック
④キャッチ
⑤フックバンド



⑤フックバンド
⑥ホック

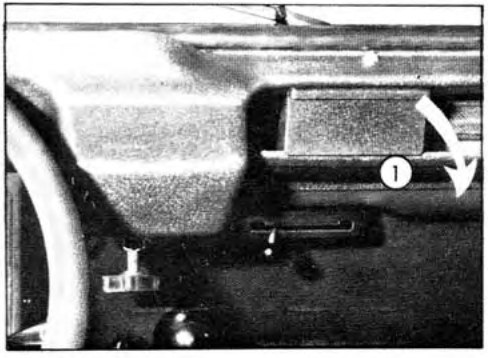


Fig. 灰皿
① 開ける方向

灰皿

Fig.35

①を矢印の方向に引く。
取外すには、リーフ・スプリングを押して灰皿を引抜く。
閉めるには、押し込んで下さい。

後部荷物棚

荷物棚は、リヤー・シートとリヤー・ウインドの間で止めてあります。
リヤー・シートと一体で取外すと、トランク・ルームが最大限に広く使えます。

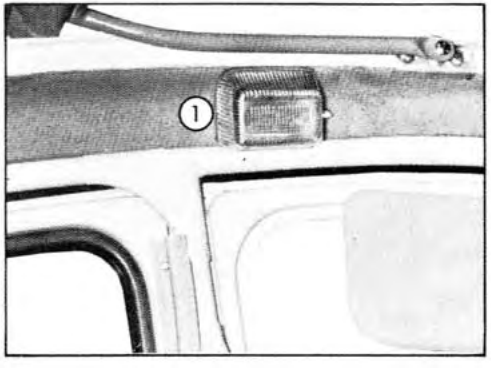


Fig.36 ① 室内灯

室内灯

Fig.36

運転席側、センター・ピラーの手前にあり、スイッチ付です。

定期的メインテナンス

レベルの点検：オイル、ブレーキ・オイル	22
機械部品及電気ユニット	24
車体作業	26
室　　内	28

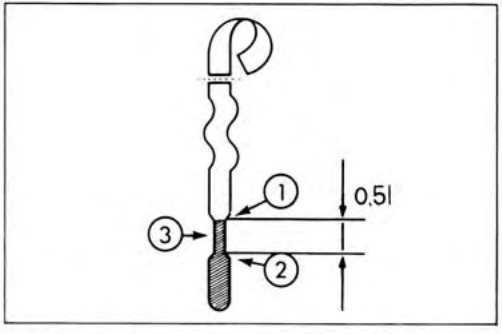


Fig.37 エンジン・オイル・ディップ・スティック
① Max
② Min
0.6 ℓ
③ レベル点検用切込

1 エンジン・オイル・ディップ・スティック

- オイルのレベルはディップ・スティックの切込部の間が正常で、走行前特に、長距離運転前にはチェックして下さい。
- チェックする時、車は水平面で、又エンジンを停止して測定して下さい。
- 補充時は、オイルレベルが切込の上端を超えない様にして下さい。切込みは約0.6 ℓ に相当します。

2 エンジン・オイル・フィラー・パイプ

夏・冬ともに、シトロエンで下記のオイルをおすすめします。

20W50

温度が－10 ℃ 以下の所では、

10W30

みだりに添加剤は使用しないで下さい。

オイル補充後は、キャップを完全に閉めることを忘れないで下さい。

3 ブレーキ・オイル・タンク

オイル・レベルは、透明容器ですから眼で確認出来ます。

〝MIN〟マークの下には、絶対にしないで下さい。

補充には、緑色の〝LHM〟オイルだけをお使い下さい。

特に植物性、合成等のオイルを使用しますと、油圧・機構が、急速に破損されます。TOTALのLHMのみお使い下さい。

4 フロント・ガラス・ウォッシャー

きれいな水を補充して下さい。冬又は夏用の添加剤の使用も可能です。

5 バッテリー

特に夏には、常に溶液のレベルを点検して下さい。

レベルは、極板の上、1～2 ㎝位が正常です。

補充には、酸の使用はしないで、蒸溜水のみにして下さい。

点検中、裸火の使用はしないで下さい。

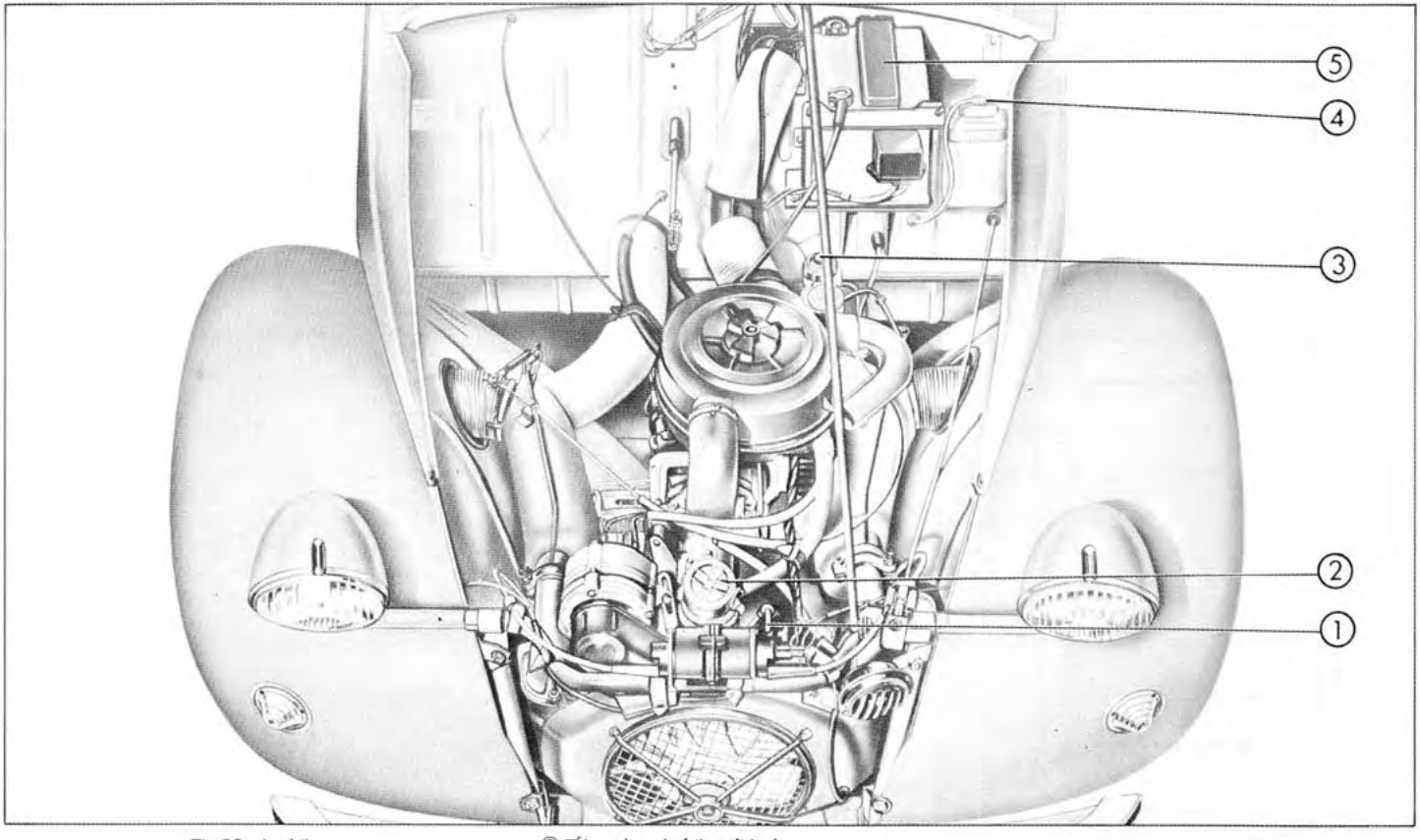


Fig.38 レベル
①エンジン・オイル
②エンジン・オイル・フィラー
③ブレーキ・オイル・タンク
④フロント・ガラス・ウオッシャー・タンク
⑤バッテリー

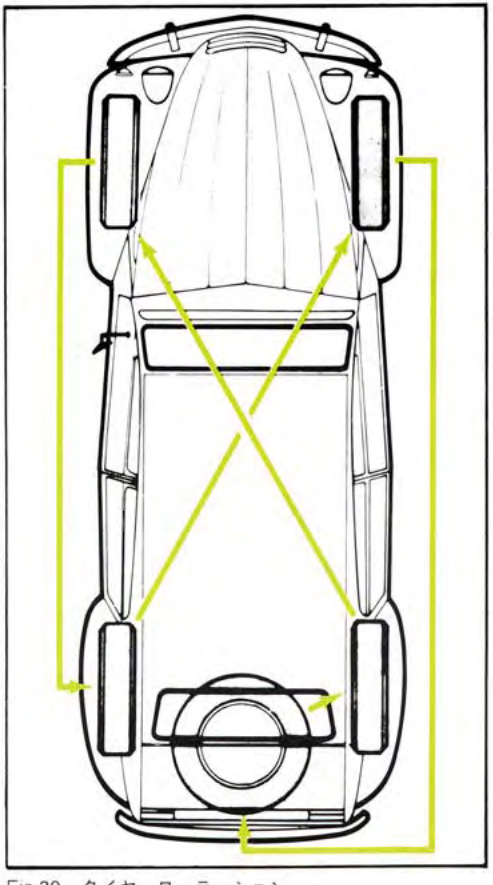


Fig.39 タイヤ・ローテーション

定期的メインテナンス

指定の定期メインテナンスを、シトロエン販売店で受けて下さい。
オイルは、シトロエン販売店の指定品をご使用下さい。オイルの混合、特に、不良な添加剤の使用は重大なトラブルの原因になります。
エンジン・ルーム内のゴム製の部品のグリース、供油は絶対にしないで下さい。
チェンジ・レバーのグリース、供油も絶対にしないで下さい。

タイヤ

〝ミシュラン〟

標準サイズ	使用可能サイズ	タイヤ圧		
		フロント	リヤー	スペアー
125-15X	135-15X	1.4 bar (20 psi)	1.8 bar (26 psi)	2 bar (29 psi)
	125-15X (M+S)	1.4 bar (20 psi)	1.8 bar (26 psi)	2 bar (29 psi)
	135-15X (M+S)	1.4 bar (20 psi)	1.8 bar (26 psi)	2 bar (29 psi)
	135-15ZX	1.4 bar (20 psi)	1.8 bar (26 psi)	2 bar (29 psi)

- タイヤ圧は、積載時、及び完車時、一般道路、高速道路、スピードに関係なく一定です。砂利道ではフロント1.6、砂地ではフロント・リヤー共1.0に135-15ZXの場合には変更の必要があります。
- スペアー・タイヤ使用時は、タイヤ圧の調整を忘れないで下さい。
- タイヤ圧は最底月一度は点検、特に長距離走行前には点検して下さい。安全走行はタイヤ圧によるところが大です。正常なタイヤ圧はタイヤの寿命にも関係します。タイヤ点検は、タイヤが冷えている時にして下さい。積載時高速走行では、タイヤ圧が0.5程上っています。
- パンク後は、ホィール・バランスの点検をして下さい。
- 対角線上のタイヤ・交換は、タイヤの摩耗差を平均にします。従って、タイヤの位置交換は常に行い同軸両輪の摩耗差を防ぎます。
- 指定タイヤ以外は使用しないで下さい。

スノー・タイヤ：
125-15X(M＋S) 又は 135-15X(M＋S)のスパイク・タイヤを取付ける場合、タイヤ圧を0.2増やして下さい。

タイヤ摩耗表示：
トレッドに直角に、一定間隔を置いて、摩耗が或る程度に達するとバンド状に表われて来ます。
その場合、そのタイヤは直ちに交換して下さい。

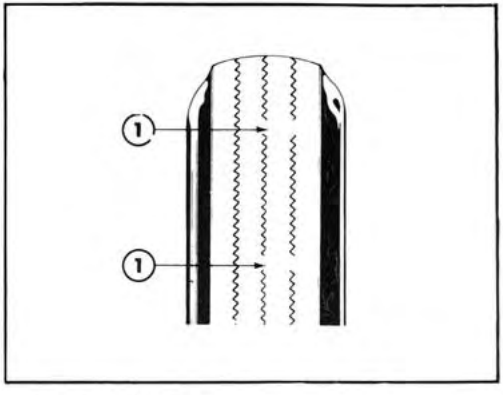


Fig.40 タイヤ摩耗表示
① 警告表示部

バッテリー・メインテナンス

ターミナル及びリード・ワイヤーが汚れていないか点検して下さい。若し汚れていたら、取外して清掃し、フェルト・ワッシャーをキャスター・オイルかワセリン・オイルに浸して下さい。
車を使用しない時は、バッテリーは毎月充電して下さい。
冬期には、正常充電が凍結防止となります。正常に充電されたバッテリーは、－50℃に耐えますが、放電したバッテリーは、－5℃位で破れることがあります。
エンジン回転中に、ターミナルからリード線は外さないで下さい。

エアー・フィルター

Fig.41

22,500km毎に、フィルター・カートリッジを、ガソリンで洗って下さい。
その後、エンジン・オイル40%、ガソリン60%の混合液に浸して下さい。
取付前に、カートリッジから油を切る様にして下さい。
カートリッジの取外しには、フィルター・カバー①を時計逆方向に回して下さい。再度取付ける時に、カバーを回す時、抵抗が感じられますが、三角マークが向き合う迄回して下さい。

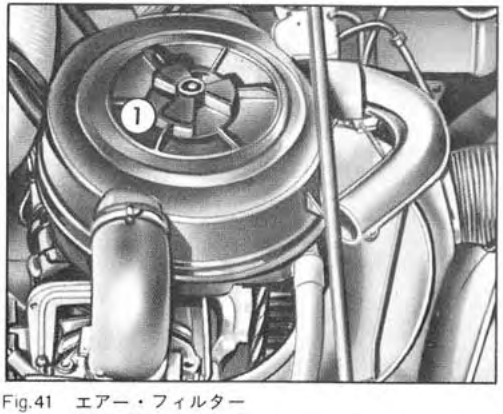


Fig.41 エアー・フィルター
① カバー

車体は定期的に見て下さい (特に冬期)。ペイント部とかメタルの飾り部分だけでなく、車の下側も見て下さい。シトロエン販売店にお尋ねいただいても結構です。
乾燥時にこすると傷がつきます。
ガソリン、トリクロエチレンやアルコール類はペイントを傷めるだけでなく、プラスチック部品も傷めます。

車体の清掃

ペイントを良い状態に保つのに、洗車を常々することが必要ですが、下記の事に注意して下さい。

- 炎天下又は霜降時の洗車は止めて下さい。又、車体が暑い時は冷える迄待って下さい。
- 水洗いの後で、水滴が残らない様にし、又ブレーキを数回踏んで、ブレーキのライニングを乾かして下さい。

窓の清掃

アルコール又は、ガラス・クリーナで清掃出来ます。シリコン系のものは使用しないで下さい。
ワイパー・ブレードのゴムは、石鹸水で洗い、ブレードのエッジには力をかけないで下さい。

外部のメタル飾り

水洗いした後は、良く乾燥させてから、クローム・ポリシュ等を塗って、
メタルの磨き面を保護して下さい。

車体についたコール・タール

ついたら直ちに取除いて下さい。
特別なタール・リムーバー以外は使用しないで下さい。

ペイント磨き

冬の終り頃にすることをおすすめします。
完全に清掃され、乾いた状態で、液状ポリシュをお使い下さい。

ペイントの軽度の損傷

スクラッチや軽度の損傷には、タッチ・アップ用のエアロゾルで結構です。

内張りの清掃

化粧用石鹸をご使用下さい。
布地には、ブラッシュをかけるか、バキューム・クリーナをご使用下さい。

布地の汚れ

石鹸水で落ちない場合は、メチール・アルコール90°か、無鉛ガソリンを使用して下さい。

シート・ベルト

石鹸水で落ちない場合は、メチール・アルコール90°か無鉛ガソリンを使用して下さい。ベルトを染めると、強度が落ちる可能性があります。

計器盤のダイアル

石鹸水又は水で薄めた洗剤以外は使わないで下さい。

ステアリング・ハンドル

石鹸水又は水で薄めた洗剤を使って下さい。
アルコール、無鉛ガソリン等は絶対に使用しないで下さい。

マイナー・リペアー

ホィール交換	30
ヘッド・ランプ調整	31
電球の交換	31
フューズの交換	34
バッテリーの交換	34
スパーク・プラグの交換	
クランク・ハンドルの使用	36
牽　引	36

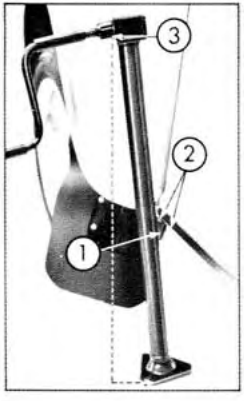


Fig.42

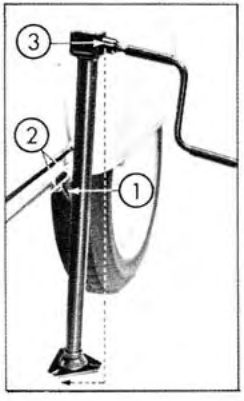


Fig.43

① リフト・アーム
② サポート
③ コントロール・スクリュー

工具キット

スペアー・タイヤ、ジャッキ、クランク・ハンドル、木製ブロックがトランク内にあります。

取外し

Fig.42 and 43

- ハンド・ブレーキを充分に引き、
- 取換えるホィールの反対側の車輪に対角線上に木のブロックをし、道路が斜面の場合は、下り方向にブロックを入れる。
- ホィール・ナット３ヶを緩め、ジャッキのベースを車の下に充分に置き、交換するホィールの方向に少し廻し、ジャッキ・アップする時、車体に触れない様にし、リフト・アーム①をサポート②に充分に嵌め込みます。左右フロント及びリヤー・ドアの手前にサポート・ハウジングがあります。
- コントロール・スクリュー③を手で回し、ジャッキが確実に接触する様にします。
- それから、ハンドルで車を上げます。
- ナットを緩め、ホィールを手前に引いて取外して下さい。

取付け

- 取外し作業を逆に行って下さい。
- リヤー・ホィール：
  ハブを回し、スタッド・ボルトの１本を最下部の位置にして下さい。
  ホィールをこのスタッド・ボルトに嵌め込み、他の２本のスタッド・ボルトが、上向で相向う様にします。そうしますと、ハブはホィールの重みで安定します。
  注記：交換したタイヤは、直ちに、タイヤ圧を調整して下さい。

電球の交換

ヘッド・ライトは：12V-45/40W

2CV6 Club　　Fig.45

●ヘッド・ランプ・ユニットの取外し
　クローム・メッキした止め金①の後部を押し、ランプ・ユニットを前方に傾け、下部の止め金を外して下さい。
●電球の交換：
　コネクター②のリード線を外して、
　電球のフランジ③を持ちながら、クリップ④を90°回して下さい。
　不良電球を取外し、新しい電球は、フランジが、ロックの位置に入る様にして取付けて下さい。
　クリップ④を戻し、コネクター②に挿し込んで下さい。
電球を交換したら、シトロエンの工場で、照射方向の点検をすることを、おすすめします。

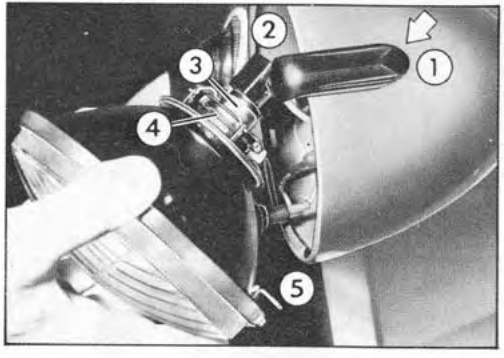


Fig.45　ヘッド・ランプ（円型）　2CV6 Club
①止め金ロック
②コネクター
③電球フランジ
④クリップ
⑤止め金

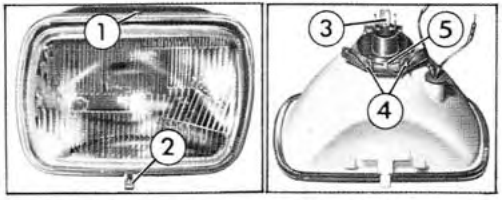


Fig.46 "SEIMA" unit
①止めスクリュー
②プラスチック止具
③コネクター
④固定バックル
⑤位置決め釘

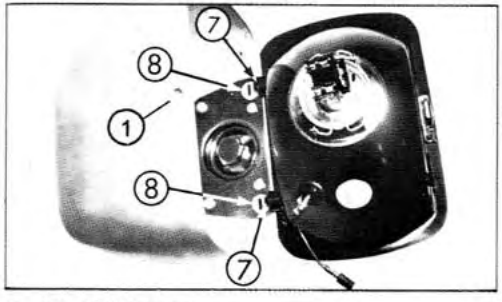


Fig.47 "CIBIE" unit
①スクリューの位置
⑦止め具
⑧白のプラスチック・ボタン

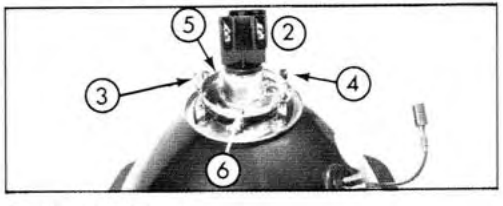


Fig.48 "CIBIE" unit
②コネクター
③④固定スプリング
⑤球のフランジ
⑥位置決め止め釘

電球は：12V－45/40W

2CV6 Club

"SEIMA" unit

Fig.46

●ヘッド・ランプ・ユニットの取外し：
ランプ・ユニットの上部を止めているスクリュー①を緩めて、
反射鏡下部のプラスチック止め具②を押して、上方に傾けながら、取外して下さい。

●電球の交換：
黒いプラスチックのコネクターから、リード線を外し（③の位置）
同時に、下部のスプリングの2ヶのクリップ④を上げて、電球を外して下さい。
不良な電球をソケットから取外し、
新しい電球は、ソケットの位置決めの溝⑤に合せて下さい。
下部の2ヶのクリップで固定して下さい。そしてコネクターを挿入して下さい。

●ヘッド・ランプ・ユニットの取付：
ユニットをハウジングの内に入れ、
反射鏡の底部にある白いプラスチックのツマミを押してから押し込んで下さい。
ハウジング上部のスクリューを締めて下さい。

"CIBIE" unit

Fig.47and 48

●ヘッド・ランプを取外すには、スクリュー①を緩め、ヘッド・ランプを手前に傾けて下さい。

●電球の交換：
黒のプラスチック・コネクター②をリード線から外し、
電球のフランジを押さえているクリップ（③と④）を90°開いて下さい。
新しい電球のフランジを、ハウジングの反対側の位置決溝⑥に合せて取付け、
クリップ③と④を戻し、コネクター②を挿入して下さい。

●ヘッド・ランプの取付：
位置決留め具⑦を、プラスチックの溝⑧に挿入し、ハウジングに入れて、スクリューを締めます。

車巾灯と尾灯　Fig.49

●フロント・車巾灯
電球はヘッド・ランプ・ユニットの反射鏡についています。ソケット①を回しながら引き抜いて下さい。

Fig.50

●尾　灯
電球は、制動灯・方向指示灯と一緒のケースに入っています。
カバーの取外しには、スクリュー２本を緩めて下さい。

方向指示灯

●フロント：
２本のスクリューを緩めて、カバーを取外して下さい。

●リヤー：　Fig.50
尾灯の項参照

制動灯　Fig.50

尾灯の項参照

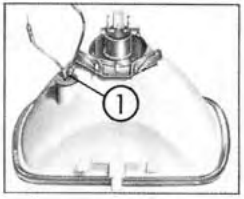
リヤー・ナンバー・プレート・ランプ

リヤー・バンパー上にあります。

室内灯

カバーの両側を押して、下へ引いて下さい。

12V－5W	
12V－5W	
12V－21W	
12V－21W	
12V－7.5W	
12V－7W	



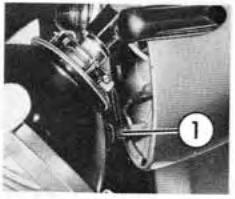


Fig.49　ヘッド・ランプ
①車巾灯ソケット

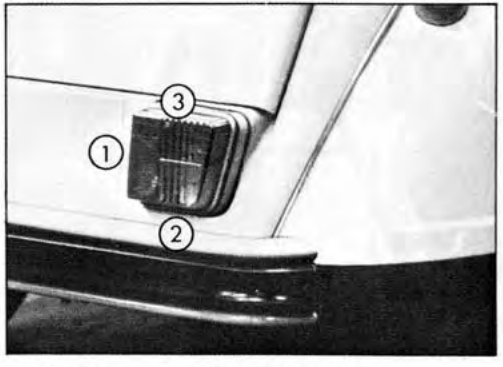


Fig.50　リヤー・ランプ・コンビネーション
①尾　灯
②方向指示灯
③制動灯

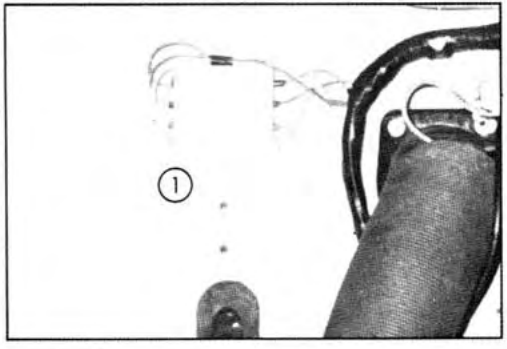


Fig.51 フューズ
①ボックス

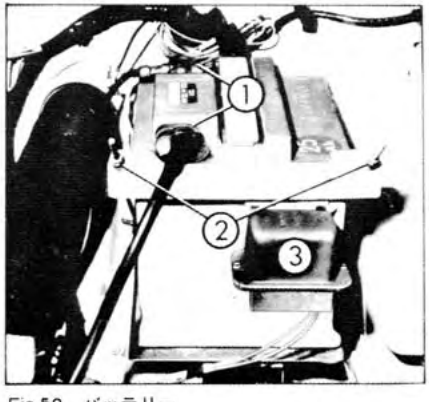


Fig.52 バッテリー
①ターミナル
②止め金
③レギュレーター

フューズの交換

Fig.51

フューズ交換前に、フューズ切れの原因を探し、手当をする必要があります。
- 回路防護の3ヶのフューズは（16A 1ヶ、10A 2ヶ）ボンネット下の隔壁の上部にあります。
- フューズ・ボックス・カバーを外し、同じアンペアーのフューズと交換して下さい。

フューズ表

2CV6 Club

緑マーク(10A)
- 左テール、スモール
- ダッシュボード照明
- 番号灯

赤マーク(10A)
- 右テール、スモール

青マーク(16A)
- フロントウインドワイパー／ウォッシャ
- ガソリンゲージ、ボルトメーター
- エンジン油圧警告灯
- ブレーキオイル・レベル警告灯
- チョーク警告灯

黄マーク(10A)
- ルームランプ
- ハザードランプ
- ストップランプ

- 別に取付けられたフューズはバックランプ用です。

バッテリーの交換

Fig.52

- バッテリー：12V－125/25AH
  ターミナル①をバッテリーから取外し、常に（－）側から行って下さい。
- バッテリー止め金のタイロット②を緩めて
- ボルテージ・レギュレーターを上方に引いて、取外し、
- バッテリーを持ち上げ、車のフロント方向にスライドして下さい。
- 新しいバッテリーを取付ける時、ターミナルが正しい位置にあるか点検して下さい。

スパーク・プラグの交換

電極のギャップ＝0.65～0.75㎜

標準プラグ：

- －NGK BP 6HS
- －Champion L85
- －Bosch W 225T1
- －Bosch W 5A

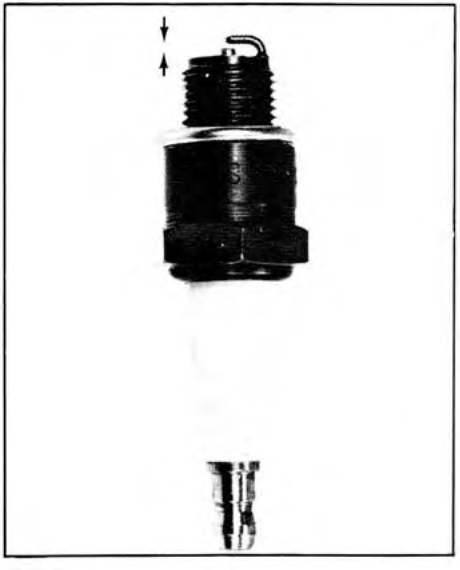


Fig.53

取外し：

●プラグ・スパナーで緩めた後、ゴム・チューブ片をプラグにかぶして、チューブを回し、
●完全に緩めて、プラグを取外して下さい。

取付け：

●交換するプラグにゴム・チューブ片をはめこみ、
●手で出来るだけ、捻じ込んで下さい。
●最後にスパナーで締め付けて下さい。

ＬＨＭの緊急時代用オイル

緊急の場合、ＬＨＭオイルの代用として、エンジン・オイルSAE10又はSAE20か、オート・マチック・ギヤ・ボックス・オイルのDEXRONの使用が出来ます。
然し、出来るだけ早く、シトロエン販売店工場で、LHMえの入換をする必要があります。

注意：絶対に一般のブレーキ・オイルを入れないで下さい。

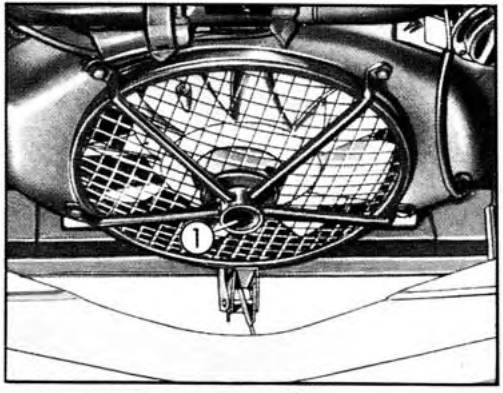


Fig.54 クランク・ハンドルでの始動
① 挿入口

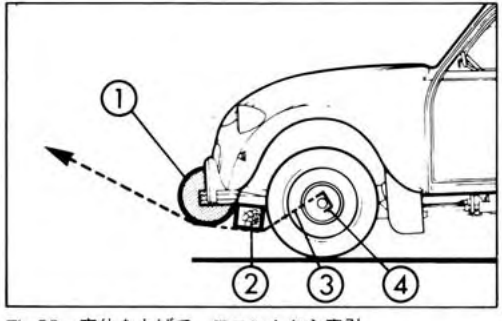


Fig.55 車体を上げて、フロントから牽引
① バット
② 木製のクロス・ビーム
③ ケーブル
④ フック

クランク・ハンドルでの始動

Fig.54

ハンドルはトランク・ルームにあります。
ボンネットを開け、フロント・グリルの孔①に、クランク・ハンドルを入れ、ファン・プリーに噛せます。
ハンド・ブレーキを引き、ギャーをニュートラルにすることを忘れないで下さい。

車の牽引

Fig.55

2CVの牽引には図の様に予め、特殊フック付ケーブル、フロント・ボディーの保護材等が必要です。
牽引の必要がある場合、フロント・アームにフックをかける事が必要で、バンパー等で牽引はしないで下さい。
シトロエン販売店の工場にご相談下さい。

ドアー・ロックの凍結

寒期に入る前に、グリセリン又は不凍液をドアー・ロックに少量注入して下さい。
緊急時には、キーをマッチかライターで加熱して、挿入して下さい。

その他

馴らし運転、サービス、保証
運転及び走行費用 38
トレラーの牽引 39
車両の認識番号 39
概要諸元表 40

馴らし運転

最初の2,000kmの間、エンジン回転の上げ過ぎは避けて下さい。スピードメーターの針が、色別マークを超えない様にして下さい。又この間に、

－急激な加速
－急ブレーキ
－一定速度での長距離走行
－低回転でのエンジン負荷等は避けて下さい。

サービスと保証

－納車時に、シトロエン・サービス・ガイド・ブックを差上げます。
－サービス・ガイド・ブックには保証書及び定期サービスの項目、サービスの時期等が記入されています。

走行費用は運転技術に影響されます

運転マナーが走行費用に影響し、特に、燃料、オイル、タイヤの費用に関係があります。走行費用の増大は下記の場合、特に著しく見られます。

－スピード
－ロー・ギャーの使用
－加速、ブレーキ使用の頻度
－不必要時のアクセルの使用
－チョークの長時間使用
－高速でのカーブ
－正常でないタイヤ圧

オイルの消費量は、エンジンの馴らし運転の仕方で影響されます。オイル交換と共に、特にこの点にご注意下さい。

トレラーの牽引

フランスでの最大牽引重量は：

●ブレーキ無しトレラーの場合：270kg
●ブレーキ付きトレーラの場合：400kg
とされています。

認識番号

メーカー・プレート ▶ ボンネット下、隔離壁の右側
打刻ナンバー ▶ フロント・サイド・メンバー右側上面
エンジン・プレート ▶ エンジン・ブロックの右側

Fig.56

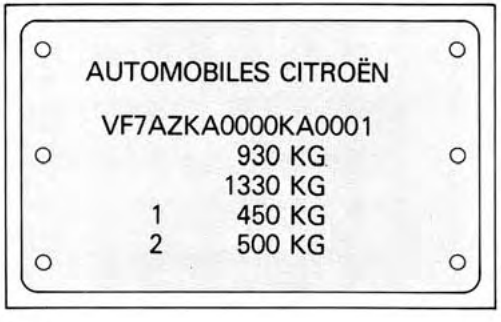


Fig.56

Fig.57

Fig.57

セダン ▶ 前輪駆動
座席数 ▶ 4人乗り
フランス馬力 ▶ 3CV
最高速度 ▶ 115km/h
最大勾配 ▶ 12%（8：1）

1000回転でのスピード		
第1速	5.13 km/h	
第2速	10.06 km/h	
第3速	14.98 km/h	
第4速	20.33 km/h	
バック・ギヤー	5.13 km/h	

重量		
車両重量	590 kg	
前軸	345 kg	
後軸	245 kg	
総重量	810 kg	
前軸	415 kg	
後軸	395 kg	
最大牽引重量		
ブレーキ無	270 kg	
ブレーキ付	400 kg	

寸法		
全長	3.83 m	
全巾	1.48 m	
回転直径	11.20 m environ	

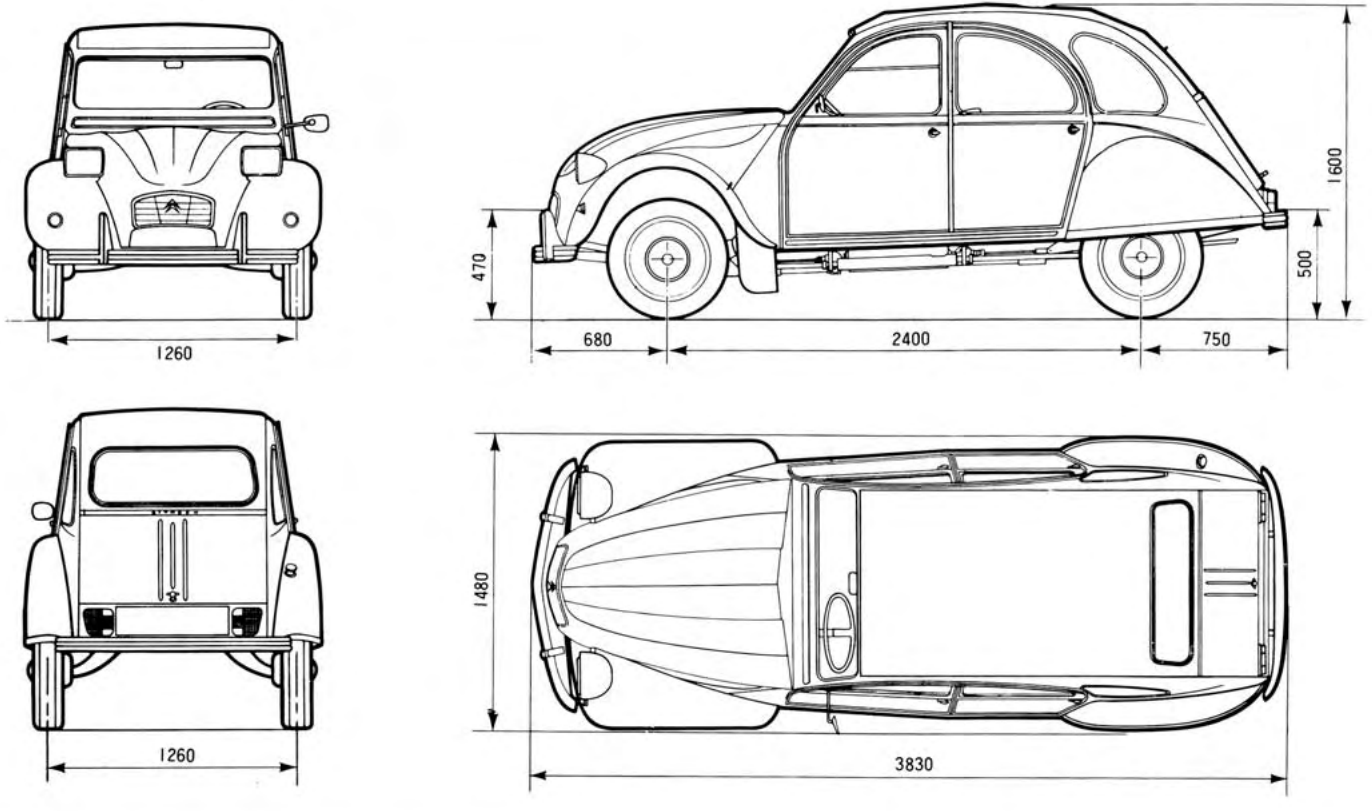
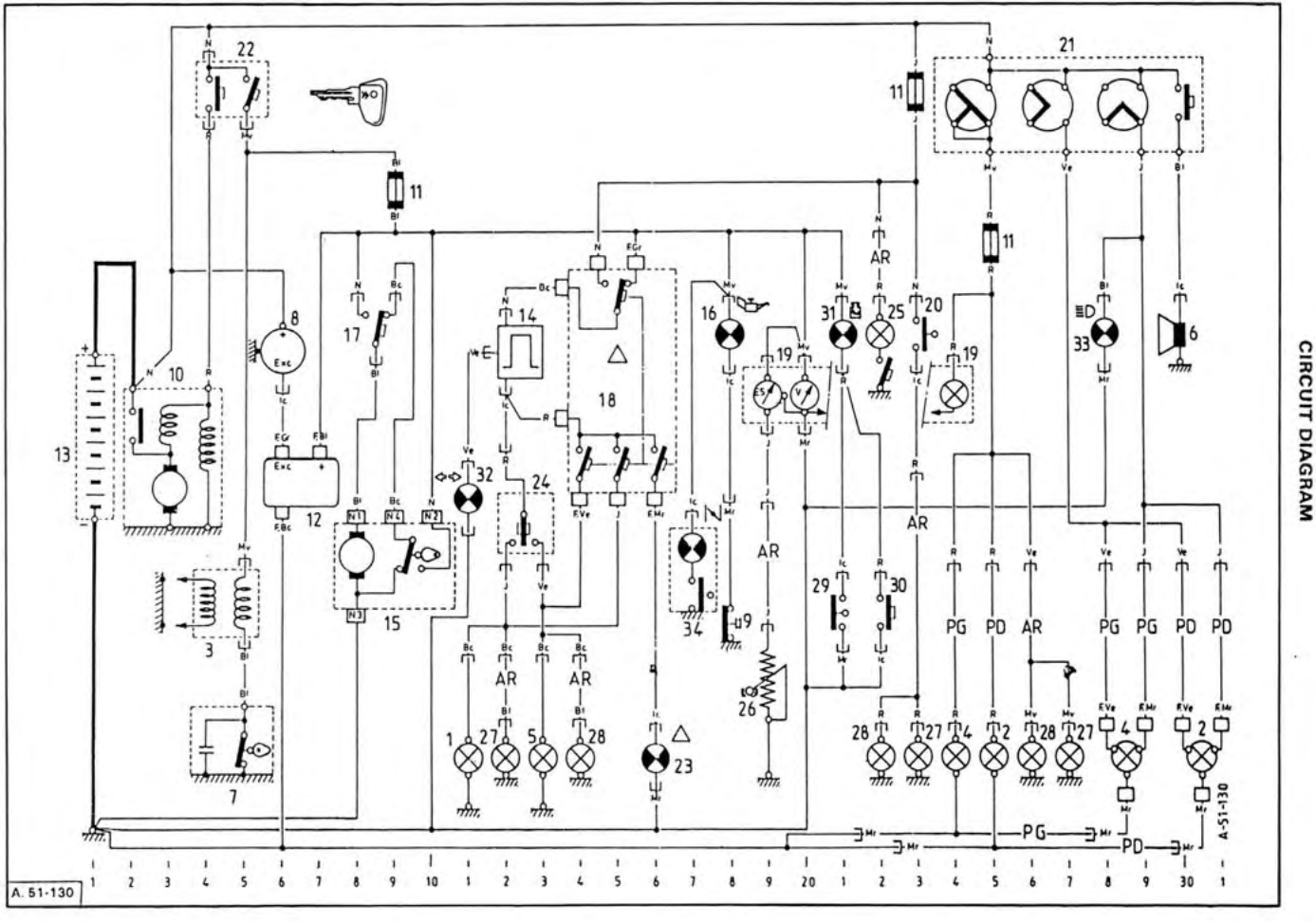


Fig.58

エンジン	記　述	Citroën type A06/635
	シリンダー	2気筒水平対向
	径	74mm
	ストローク	70mm
	容　積	602cc
	圧縮比	8.5:1
	最大出力（DIN）	21kW at 5750rpm
	最大トルク（DIN）	3.8mdaN（28ft lbs）at 3500rpm
バルブ	ロッカー・アーム・ギャップ(冷時)	インレット 0.15～0.20mm
	ロッカー・アーム・ギャップ(冷時)	エキゾースト 0.15～0.20mm
燃料	燃料	無鉛ガソリン
	タンク容量	25リットル
	キャブレター	ソレックス
エンジンオイル	20W50(寒冷時15W40)	2.5ℓ
	交換	5,000km毎
	オイルフィルターエレメント交換	10,000km毎
ギヤオイル	SAE80W/85W0.9ℓ	30,000km又は2年毎交換
点火	進角セット	8°
	スパーク・プラグ	BP6HS
	プラグ・ギャップ	0.65～0.75mm
ブレーキオイル	TOTAL "LHM" 緑色	2年毎交換

番号	名称	位置
1	右フロント フラッシャー	11
2	右ヘッド ランプ	
	-メインビーム	31
	-ロービーム	30
	-サイドランプ	25
3	イグニッションコイル	4-5
4	左ヘッドランプ	
	-メインビーム	29
	-ロービーム	28
	-サイドランプ	24
5	右フロント フラッシャー	13
6	ホーン	30
7	デストリビュター	4-5
8	オルタネーター	6
9	オイルプレッシャースイッチ	18
10	スターターモーター	2～4
11	フューズボックス	9-23-25
12	ボルテージレギュレーター	7
13	バッテリー	1
14	フラッシャーユニット	12-13
15	ワイパーモーター	8-9
16	オイルプレッシャーウォーニング	18
17	ワイパースイッチ	9
18	ハザードスイッチ	14～16

番号	名称	位置
19	ダッシュボード	
	-ダッシュボードランプ	24
	-ボルトメーター	20
	-フュエルゲージ	19
20	ストップスイッチ	23
21	ライトスイッチ	25～29
22	イグニッションスイッチ	4-5
23	ハザードパイロット	16
24	フラッシャースイッチ	12～14
25	ルームランプ	22
26	フュエルゲージセンデングユニット	19
27	右リヤ コンビネーションランプ	
	-フラッシャー	12
	-ストップ	23
	-テール	27
28	左リヤ コンビネーションランプ	
	-フラッシャー	14
	-ストップ	22
	-テール	26
29	ブレーキオイルレベルスイッチ	21
30	ブレーキレベルテストスイッチ	21
31	ブレーキレベルウォーニング	18
32	フラッシャーパイロット	11
33	メインビームパイロット	28
34	チョーク ウォーニング	17


A. 51-130
A-51-130
AR
PG
PD

編集・発行
平成元年11月
西武自動車販売株式会社
〒171 東京都豊島区南池袋2-34-5 TEL03(984)1355(代)

シトロエン 日本総代理店

SEIBU 西武自動車販売株式会社

本　　社　〒171 東京都豊島区南池袋２－34－５　TEL 03(984)1355(代)